

別紙 企画展「あいちの発掘調査 2024」主な展示品

	<p>1 ^{せきさいたてぐし} 赤彩豎櫛</p> <p>^{かめづか} 亀塚遺跡（愛知県安城市） 弥生時代終末期から古墳時代初頭 愛知県埋蔵文化財調査センター蔵</p> <p>亀塚遺跡は鹿乗川流域に沿って広がる遺跡群の中の遺跡の一つ。赤彩豎櫛は木製で長さは約 11cm。弥生時代から古墳時代の旧河川から出土した。豎櫛は縄文時代から古墳時代にかけて使われた縦に長い櫛で、飛鳥時代以降に横櫛が広く使われるようになると姿を消す。</p> <p>本資料は一枚のカヤの板材から削り出したもので、表裏に細かい文様を刻み、赤色顔料で彩色される。赤色顔料は科学分析の結果、水銀朱であることが判明している。</p>
 <p>写真提供：名古屋市教育委員会</p>	<p>2 ^{てあぶりがた} 手焙形土器</p> <p>^{たこう} 田光遺跡（愛知県名古屋市） 弥生時代終末期から古墳時代初頭 名古屋市教育委員会蔵</p> <p>田光遺跡は、瑞穂台地上に立地しており、弥生時代から中世にかけての各時代に存在していた集落の遺跡。</p> <p>手焙形土器は鉢状の容器部分にドーム状の覆いを付けた土器で用途は不明。本資料は完形で、^{たてあな}堅穴建物の柱穴に意図的に埋められたような状態で出土した。土器の内面には液体状のものが入っていた痕跡が明瞭に残る。長らく不明とされてきた土器の^{すいぎんしゅ}使用方法を知る上で注目される。</p>
 <p>写真提供：豊橋市教育委員会</p>	<p>3 ^{えんとうはにわ} 円筒埴輪</p> <p>三ツ山古墳（愛知県豊橋市） 古墳時代後期 豊橋市教育委員会蔵</p> <p>三ツ山古墳は三河湾を望む^{むろ}牟呂地区の段丘上に築かれた全長 38m の前方後円墳。古墳は整備され、2024 年 4 月には三ツ山古墳公園として開園した。</p> <p>円筒埴輪は古墳の一段目に並べられた状態で出土した。他に儀式を再現したと考えられる形象（人物）埴輪の破片も出土している。円筒埴輪の高さは約 55cm。東三河地域では完形で復元される円筒埴輪は少なく、貴重な資料である。</p>
	<p>4 ^{かんざし} 簪</p> <p>朝日遺跡（愛知県清須市・名古屋市西区） 弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム蔵</p> <p>朝日遺跡は、東海地方最大の弥生時代の集落遺跡。</p> <p>簪の現存する長さは約 16cm で、シカの骨を加工してつくられている。簪の頭部には^{きよし}鋸歯文（^{のこぎり}鋸の歯のように連続する三角形の文様）が施されている。</p> <p>本資料は、非常に細かな彫刻が施された、弥生時代の人々の高い技術力を示す貴重な資料である。本企画展では他に重要文化財含め装身具 37 点を展示する。</p>